

県民協働型自然共生推進手づくり事業 「長野山緑地等施設内案内看板等設置整備事業」

- ☆ 日時：平成19年11月24日（土） 13：00～15：00
- ☆ 場所：周南市大字鹿野上字水ヶ浴「長野山緑地公園」
- ☆ 参加者数：60人

1 スケジュール

- 13：00～ 開会行事
- 13：10～14：50 整備事業開始（3グループに分かれ、作業開始）
- 14：50～15：00 閉会

2 活動内容

ササユリの採取を防ぎその保存を目的として、子供たちと一緒に、点在する箇所を杭、ロープ等で囲み注意看板を設置しました。同時に、公園内にある主要な植物に表示板を設置し植物観察を出来るように整え、併せて植物の生育場所を掲示する看板を設置しました。

内容は次のとおりです。（①～④）

- ① ササユリ保護活動
ササユリ自生地周辺に杭を打ちロープで囲み、むやみに立ち入れないように保護する。
- ② 樹木説明看板設置
主要な樹木へ説明看板を取り付ける
- ③ 注意看板設置
主要な箇所へ注意看板を設置する
- ④ 案内看板の設置

【開会行事】



「渋川をよくする会」から、今日の保護活動についての説明があり、「保護してきたササユ

りを花が咲く頃にまた見に来て欲しい。自然を大切にしたい。」との思いを話されました。

① ササユリ保護活動



ササユリの葉は笹に似ています。花は淡い紅色で種が落ちて2年目に初めて芽が出ます。芽が出てからもさらに花が咲くまでには、数年かかることを聞きながら作業をしました。渋川をよくする会の方から「公園内に種をまいてみたが、発芽しにくかった。やはり、ササユリが育つのに適した場所は存在します。花が咲いても、採って帰らないで。この場所だから育っている。」と話されました。

② 看板設置



看板設置場所で、樹木の説明をしながらの作業。樹木に説明をつけることで、自然にもっと関心をもってもらえます。また、子供達には、自分達が作業をした樹木を大切にすることを芽生えます。



ブナの実

ブナの原生林

昔は山口県にもブナの原生林がありました。現在は針葉樹林となっているところが多くあります。水資源を守るためには広葉樹が必要です。杉や檜は雨が降っても水をほとんど蓄えないので、そのまま川に流れてしまいます。ブナの原生林は蓄えた水をゆっくりと流出することで、洪水や渇水を防ぎ、濁水を浄化し、きれいでおいしい水を私達にくれます。「このようなブナの原生林を大切にしよう」との話がありました。

③ 注意看板設置



ブナ



ササユリ側

看板設置をしながら、ブナの原生林が自分達の生活と関わっていることやササユリが長い年数をかけてやっと花が咲くことや、今の自然を大切にしてお大人になった時にもずっと残していかなければいけないことを伝えていました。



子供達が看板を設置します



④ 案内看板の設置



看板を用いて、活動場所や植生の説明を行いました。(基礎工事が必要なため、予め設置しています。)

【閉会】



ササユリの写真を見ながら、今、行った活動の大切さを再確認しました。



(感想)

渋川をよくする会の自然を大切にする活動内容を、熱心に聞きながら、子供たちは作業していました。作業終了後に、ササユリの写真を見ながら、この貴重な植物を保護する活動をしたということを再認識してもらうこともできました。今回の体験学習は、子供達の環境保全活動に良い影響を与えたいと思います